

九品仏地区 社協だより No.151



発行者：九品仏地区社会福祉協議会
事務局：社会福祉協議会 九品仏地区事務局
世田谷区奥沢 7-35-4
九品仏まちづくりセンター内
☎ 070-3946-9797
<https://www.setagayashakyo.or.jp>

コロナで変わったこと・見えてきたこと

新型コロナウイルス感染拡大を防ごうと、様々な場面で変化が起きています。
九品仏まちづくりセンター・あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会などではどうなのでしょう。

まちづくりセンターでは

- ・6月選挙の期日前投票会場として、室内の換気や備品の除菌など感染予防対策を行いました。その際、住民の皆さんが心得ていて大変助かりました。
- ・7月、まちづくりセンターの初めての事業が「さぎ草展」でした。入り口での消毒、入場人数の制限、緑化部会員の方々をシフト制にするなど密にならないようにしました。
- ・8月、日赤の初事業は、ごみ袋を加工しての医療用300枚の簡易エプロン作りでした。
- ・当初窓口のシールドが入手できず皆で工夫しました。
- ・給付金申請の直接窓口ではないのですが、ご一緒に対象となる給付金を調べ、電話するまでつながりました。社協が隣にあることで臨機応変に対応できました。窓口に見えた方の「何とか前を向いていけそうです。」の言葉が心に残りました。

あんしんすこやかセンターでは

- ・訪問や講座開催ができませんでした。高齢者のご様子かわからず、体調の変化や認知症の進行が心配でした。
- ・集まらなくても散歩で足を鍛えられるように、ウォーキングマップを作りました。ぜひ活用してください。
- ・医療・介護サービスは感染予防に努めつつ運営を続けています。介護サービスの利用を控えている方も多いようですが、体調悪化を防ぐため安心できる内容なら活用されるのも良いと思います。
- ・介護予防講座も、体操など可能なものから再開しています。
- ・現在の課題は『おしゃべりをしたい』という要望にどう応えるかです。人が集まって会話をすれば感染リスクは避けられません。会議等ではオンラインの活用も増えてきましたが、やはり顔を合わせた方がほっとするのが実感です。
- ・閉じこもりになって心身が弱らないよう、安全な外出先やオンラインの活用など、検討していきたいと考えています。

社会福祉協議会では

- ・ふれあいサービス事業（高齢者等の家事支援等）はお休みでしたが、ごみ捨ては協力会員のご理解をいただき継続しました。
- ・サロン活動はお休みでした。代表者の方々は独居高齢者や事務局との連絡に尽力くださり、つながりが保てました。
- ・収入が減った方から生活資金の貸付申請が殺到しました。通常業務の垣根を越え職員総出で業務にあたりました。お困りの方を支援するため、寄付していただいた食材を貸付の申し込みをした方にお渡しする「食で応援プロジェクト」を実施しました。
- ・人と人とが直接会えないため、オンライン利用に関心が高まりました。現在、活用の準備を進めています。



マスク・手洗いの習慣が身に付きました。行動自粛のなか、少し家が片付きました。障がい者、高齢者の生活に支障が出ていないか心配で、地域の方へ葉書をポストインしました。(Y)

広報担当者たちの暮らしの中では…

私たち世代がためらいなくテレビのリモコンを操作するように、これからの子どもたちはためらいなくオンラインの活用による社会との関わり方を持っていくでしょう。ちょっと想像がつかない世界。空恐ろしい気がしますが、地元で井戸端会議の感覚を忘れないようにしたいと思っています。(K)

地域活動の歓送迎会を兼ねた三町会主催の花見の会も中止となり、8月過ぎてやっと初めましての挨拶が交わせることができました。「普段通りの生活ができる幸せ」をあらゆる場面で感じています。(M)



上記記載のように、オンライン会議が当たり前になる日も遠くないと思いますが、利用するソフトへの信頼が大切かと思えます。簡単・便利の裏側には、見落としがちなのかなにかがあることも想いたいです。(S)

1世紀前世界中でスペイン風邪が大流行し日本の死者は約38万人、終息まで3年続いたそうです。体験者の話が伝承されておらず様子は分かりません。コロナ禍の経験や記憶等を語り伝えることも大事なことだと思います。(G)